

子どもが夢中になって遊ぶ環境づくり
～子どもも大人も楽しいがいっぱい！明日もやろうでー！～

発表者	高橋 梓（鳥取第四幼稚園）
発表者	平田 都（鳥取第四幼稚園）
指導助言者	佐々木 晃（鳴門教育大学大学院教授）
司会者	平井 裕子（鳥取第四幼稚園）
記録者	小山こころ（鳥取第四幼稚園）
記録者	夏目 一葉（鳥取第四幼稚園）

I 発表の概要

(1) 主題設定の理由

園生活が子ども達の思いを中心としたものになるよう試行錯誤しながら取り組んできたことで、子ども達は遊びや活動、行事に主体的に関わり楽しんでいるように感じていた。しかしある時、一斉での活動の後に、子どもから「先生、遊んでもいい？」との声が聞かれ、本当の意味での子どもの主体になっていないのではないかと日々の保育の見直しをする必要性を感じた。

日々の保育を振り返る中で、「一斉での活動や行事の準備に追われ、しっかりと子どもに寄り添えているのか。」「子ども達が主体的に遊んでいる自由遊びが大切にされ、そのための環境の工夫はされているのか。」「子ども自分で作り上げ、満足できる行事や園生活になっているのか。」「保育者自身も保育を楽しいと思っているのか。」などの疑問や課題も浮かび上がってきた。

子どもをまんなかにおいた保育の展開をするために、長い歴史の中で培われてきた園の特色や、家庭・地域からの園への期待なども大切にしながら、様々な角度から自園の保育を見直し、日々の保育・行事のあり方、保育者の意識改革などを行っていきたいと思う。子どもをまんなかにおいた保育全体を考えたとき、子どもが自ら見つけ出して取り組む遊びや活動もあれば、私たち保育者がその時期に子ども達にふさわしいと提案する活動や行事もある。そこで、本研究では、「子どもが夢中になって遊ぶ姿」に支店を置いて、子どもの主体性を促す保育者の援助や環境構成の内容や方法を明らかにしたい。

(2) 取り組みについて

◎ 『子どもが夢中になって遊ぶ姿』

- ・ 子どもと保育教諭や友達同士の安定した信頼関係のもと、「もっとこうしたい」という要求や思いをアピールしながら遊ぶ。
- ・ 自分のやりたい遊びを見つけ、準備を子ども自ら進めたり、友達を誘ったりしながら遊んでいる。
- ・ やりたいことや遊びに集中して取り組んでいる。
- ・ 失敗しても諦めず、何度も繰り返して取り組んだり、修正を加え試したりしながら遊んでいる。

と捉え、それらを達成していくことを目指すことにした。

そのために、

- ① 子どもの Well-being が満たされる保育者との関係づくり
- ② 自由感の感じられる環境の構成
- ③ 季節感や子どもの経験を考慮した指導計画
- ④ 協働性を高める職員ミーティング

この4つの視点をうまくマネジメントできることで、子どもが夢中になって遊ぶ環境づくりが可能になり、子どもの主体性を尊重した実践が展開できるであろうという仮説を立てた。

◎ 研究の計画

研究の仮説に基づき、それぞれの支店の取り組み方を考えながら、2020年から取り組んできた。

- ・ 2020年『みんなでつくろう園生活』
- ・ 2021年『みんなでつくろう園生活Ⅱ』
- ・ 2022年『子ども達の育ちを支える環境づくり』
- ・ 2023年『子どもも先生も、みんなが「わくわくする園」を目指して』
- ・ 2024年『子どもも大人も楽しいこども園』

(3) 実践例 (2024年の実践より)

① 子どもの Well-being が満たされる保育者との関係づくり

【事例1】『いいいいいいばあ』(0歳児)

【事例2】『せんせい、みててね。うけとめてね。を大切に』(1歳児)

② 自由感の感じられる環境の構成

【事例3】『ハンバーガー屋さん ～ハンバーガーを作りたい！～』(2歳児) ★

【事例4】『おばけやしきであそぼう』(4歳児)

③ 季節感や子どもの経験を考慮した指導計画

【事例5】『どんぐりころがしをしよう』(3歳児)

【事例6】『ペーパーサート ～みんなに披露しよう！～』(5歳児) ★

④ 協働性を高める職員ミーティング

【事例7】『楽しいってどういうこと？』

【事例8】『『あそぼう Week』の情報共有』

※ 当日の口頭での発表は★印



(4) 反省と考察

◎ 研究のまとめ

仮説を立てたことで

- ・ 年間カリキュラムの再構築
- ・ 園の運営方法、行事の内容の見直し
- ・ 保育の在り方

等の保育の具体的な方向性が見られ、子ども達、保育者の成長につながったと感じた。

◎ 仮説検証後における総合考察

子どもの主体的活動を促すために大切なこと

- ・ 子どもの表情やしぐさ、雰囲気から表れているシグナルを敏感に察知すること。
- ・ みだりに子どもの活動に踏み込まず、注意深く観察すること。
- ・ 子どもをあたたかい雰囲気で包み込み、言葉やほほえみをかけながら、元気と勇気を与えるようにすること。

(5) 今後の課題

- ・ 保護者・地域との連携 (保護者のコミュニティづくり 子育て支援の場と情報発信)
- ・ 保育環境と職員配置 (空間活用での遊びの継続 柔軟な職員配置の工夫)
- ・ 行事と子どもの主体性 (行事の意図や形式の見直し 子ども主導)
- ・ 保育者間の共有と連携 (情報、気づきの共有方法 相互理解、共通認識づくり)
- ・ 業務改善 (書類の整理、内容の見直し ICT の更なる活用)

2 研究協議

(1) 発表内容に対する質疑応答

Q リサイクル材や材料の管理はどうしていますか？

A 教材室に使えそうなものは保管しておく。学年だよりで保護者に知らせ、リサイクル材集めに協力してもらう。家から持ってきたものは自分でリサイクル材置き場に置いて、使うものを出すようにする。クラス間でやりとりをして欲しいものを欲しいクラスが使えるようになる。

Q 割り箸などの危ない物の管理はどうしていますか？

A 家庭から持ってきてもらった段階で保育者が中身を確認し、それが済んでからリサイクル材置き場に入れるようにする。小さな学年は保育者と一緒に選ぶようにしている。また、アレルギーのある子どもがいる場合は特に気を付けて見ていく。

(2) 全体討議

以下の3つの議題について考え、付箋に記入し、グループに分かれてKJ法を用いて話し合いをする。

① 子どもの主体的な遊びの姿

② 1の姿から行事へのつながり（子どもが主体的な行事の取り組みについて）

③ 職員の連携や情報共有の工夫について

①と②の内容について

<1グループ>

保育者が子どもが好きなことを認めることで、自信をもって遊びだすことができる。

<3グループ>

自分が楽しいと思う・関心があることに向かう中で、約束を作っておく必要がある。失敗しても繰り返し折り組もうとする力を養うことができる。おもしろい動きなどは、運動会や発表会のダンスに取り入れてもいいと思う。

<5グループ>

子ども達の遊びは全て繋がっている、「楽しい！」と思うから生き生きして取り組むことができる。

③の内容について

<2グループ>

職員会等で全員揃うことが難しい。紙面やICT（コドモン）の議事録で共通理解をする。ICTは慣れていない職員がいるため使い方に留意する必要がある。写真等を使って子どもへの共有も大切である。職員間での何気ない日々の会話を大切にすること。

<4グループ>

保護者の了承を得て、子ども達は月一早帰りで職員会をもつ日にする。立ち話の大切さ。職員同士が仲良しであることがなにより大事である。それが園の雰囲気作りへと繋がり、子ども達の過ごしやすい環境になっていく。

<6グループ>

学期ごとに子どもの様子を共有する。写真や動画をたくさん撮って、分かりやすい記録として残す。職員間のコミュニケーションを大切にする。



3 指導助言

鳴門教育大学大学院学校教育研究科

幼児教育コース 佐々木 晃氏

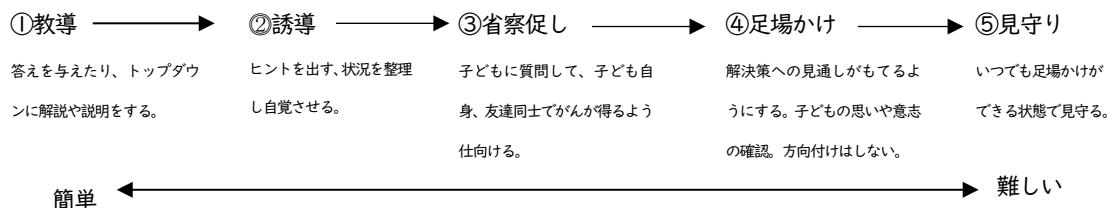


(1) こどもがまんなか」の実践がなぜ必要？

生産年齢人口減少・グローバル化と技術革新→
近い将来何が起こるか分からぬ社会を生き
ていく子ども達が伝統や文化に立脚し、自立し、
他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を
切り開いていく力を身につけるため。

(2) 「主体的」って何？

幼児自身が気づき・感じ・考え・行動する（表現する）→結果の責任をとること
子どもが、自分の人生の主人公になること
<幼児の発達に資する援助の水準>子ども達が自分で答えを導き出せるよう働きかける。



(3) 鳥取第四幼稚園の先生方の実践と研究に学ぼう！

- 研究のデザインに優れている。
 - ・ 「研究の仮説」を柱として、日常の保育を省察し組み立てていく。課題と成果を見る化することで、研究意欲が向上する。
- 時間・空間・仲間の3つの「間」をコーディネートしている。
 - ・ 自由な選択活動と学級活動・設定保育のバランスが取れたり、繋がりができたりしている。
- R-PDCA サイクル (R=Research/状況把握) の必要性。
- 主体性の根っこは、自己肯定感・自尊感情である。
 - ・ 自尊感情が低い子どもは正しい自分の守り方ができない。→嘘をつく・頑張りすぎようとする・自分で判断ができなくなる etc…
 - ・ 頑張ってよかった・先生が見ていてくれたと思える経験をすることで自己肯定感が育つ。
 - ・ 保育者の、子どものシグナルに的確に応じる敏感性と、逆にシグナルを発信してこない場合は子どもの自律的な活動に干渉しない非侵害性が大切である。
 - ・ 保育者は、人生の先輩として子どものワクワク感を引き出せる存在であるよう努める。

(4) 主体性を引き出すクラス経営

【ポジティブ】 ~しましょう・~できます → どうしたら褒められるか

【ネガティブ】 ~してはいけません、ダメ！・~しないと~できません

→ どうしたら叱られないか